

H 2 7－No. 2 7

図は、平成 18 年度から平成 25 年度までの廃棄物の処理重量とリサイクル重量（廃棄物から分離された材料のうちリサイクルされたものの重量）を示したものであり、表は、図に示された素材別リサイクル重量の数値を示したものである。これらから確実にいえるのはどれか。

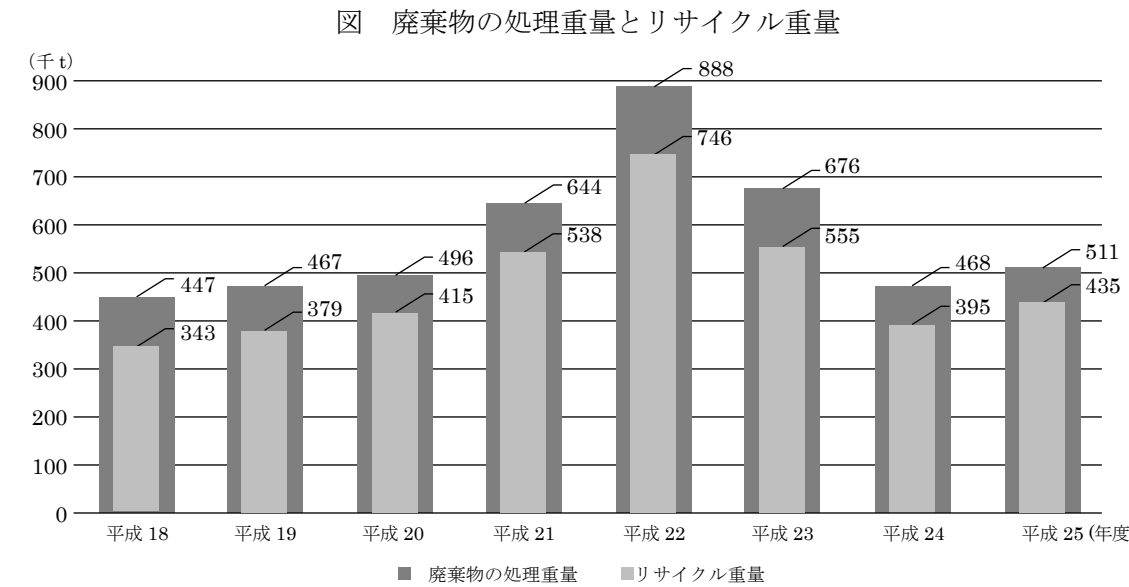


表 素材別リサイクル重量 (千 t)

年度 素材	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25
鉄	142	147	152	177	218	180	164	182
銅・アルミニウム	15	23	26	31	46	35	27	31
非鉄・鉄等混合物	65	59	59	64	82	68	65	75
ブラウン管ガラス	52	68	84	138	218	122	31	23
その他有価物	69	82	94	128	182	150	108	124
計	343	379	415	538	746	555	395	435

1. リサイクル率（＝リサイクル重量÷廃棄物の処理重量）は、平成 18 年度から平成 22 年度まで徐々に上昇し、平成 23 年度以降は下降している。
2. 平成 18 年度から平成 25 年度までのいずれの年度でも、リサイクル重量のうちの 50% 以上を鉄とブラウン管ガラスが占めている。
3. 平成 22 年度以降、廃棄物の処理重量が減少傾向にあるのは、リサイクル対象廃棄物の家電品目が減少したことを示している。
4. 平成 19 年度に対する平成 24 年度の素材別リサイクル重量をみると、その増加率が最も大きいのはその他有価物であり、減少率が最も大きいのはブラウン管ガラスである。
5. 平成 18 年度から平成 21 年度までの各年度のうち、リサイクル率が 80% 以下の年度のリサイクル重量に占める非鉄・鉄等混合物の割合は 25% である。